

1.麻疹

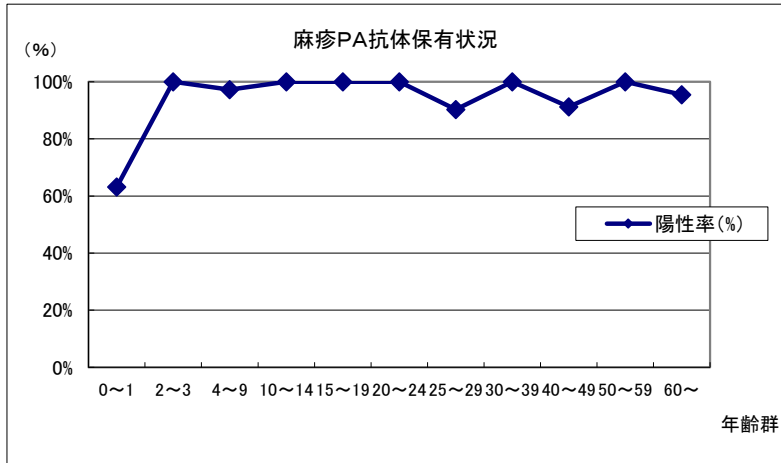
1) 検体数

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
検体数	19	16	36	29	23	22	41	91	34	19	22	352

麻疹は合計352検体についてゼラチン粒子凝集 (particle agglutination: PA) にて麻疹PA抗体価を測定した。各年齢群の指定検体数は22で、0～1歳の年齢群及び2～3歳の年齢群の年齢群で指定数に達しなかった。

2) 麻疹PA抗体保有状況 (%: PA価16倍以上陽性)

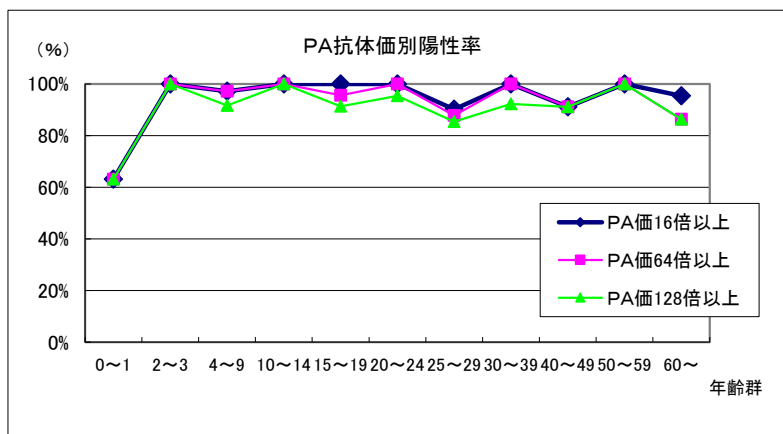
年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～
陽性率 (%)	63.2%	100.0%	97.2%	100.0%	100.0%	100.0%	90.2%	100.0%	91.2%	100.0%	95.5%



麻疹抗体保有状況は、2～3歳、10～14歳、15～19歳、20～24歳、30～39歳、50～59歳の年齢群で100%であった。25～29歳、40～49歳の年齢群で陽性率が95%を下回ったが、それ以外の0～1歳の年齢群を除く年齢群では陽性率が95%を超え高い保有率を維持していた。10～14歳、50～59歳の年齢群では昨年度より上昇した(昨年度はそれぞれ94.4%、88.2%)。

3) 麻疹PA抗体価別陽性率(%)

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～
PA価16倍以上	63.2%	100.0%	97.2%	100.0%	100.0%	100.0%	90.2%	100.0%	91.2%	100.0%	95.5%
PA価64倍以上	63.2%	100.0%	97.2%	100.0%	95.7%	100.0%	87.8%	100.0%	91.2%	100.0%	86.4%
PA価128倍以上	63.2%	100.0%	91.7%	100.0%	91.3%	95.5%	85.4%	92.3%	91.2%	100.0%	86.4%



抗体価は修飾麻疹を含めた発症予防可能レベルを考えるとPA価128倍以上が望まれる。令和元年度はPA価128倍以上の陽性率が2～3歳、10～14歳、50～59歳では100%であり、0～1歳、25～29歳、60歳～以外の年齢群では90%以上の高い保有率を示した。

確実な免疫を得るために、2回の定期接種を受けることが重要である。麻疹の罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合には予防接種を受けること、また、接種歴が1回の場合や流行国に渡航する場合等には、2回目の予防接種を検討する必要がある。

2.風疹

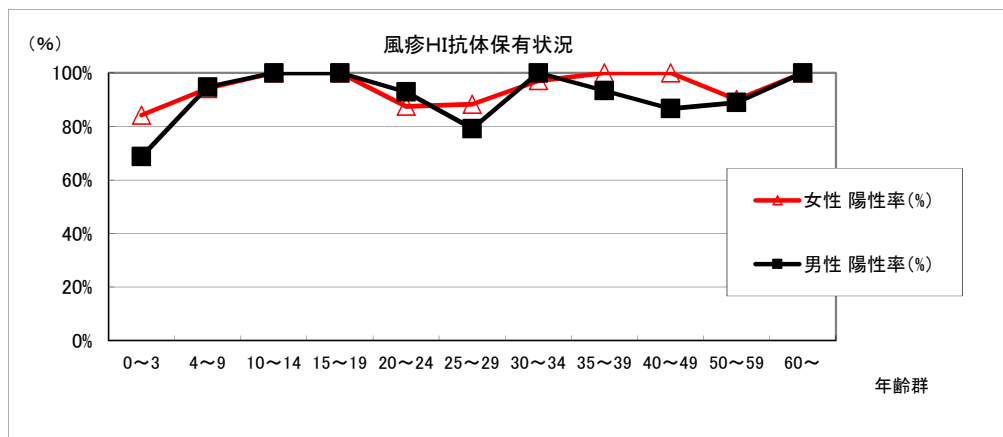
1) 検体数

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～49	50～59	60～	合計
女性	19	17	14	12	8	17	34	21	19	10	10	181
男性	16	19	15	11	14	24	21	15	15	9	12	171
検体数合計	35	36	29	23	22	41	55	36	34	19	22	352

風疹は合計352検体について風疹HI抗体価を測定した。各年齢群の指定検体数は男女それぞれ18であるが、女性は0～3歳、30～34歳、35～39歳及び40歳以上の年齢群で、男性は4～9歳、25～29歳、30～34歳及び40歳以上の年齢群で指定数に達した。

2) 風疹HI抗体保有状況(％: HI価8倍以上陽性)

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～49	50～59	60～
女性 陽性率(%)	84.2%	94.1%	100.0%	100.0%	87.5%	88.2%	97.1%	100.0%	100.0%	90.0%	100.0%
男性 陽性率(%)	68.8%	94.7%	100.0%	100.0%	92.9%	79.2%	100.0%	93.3%	86.7%	88.9%	100.0%

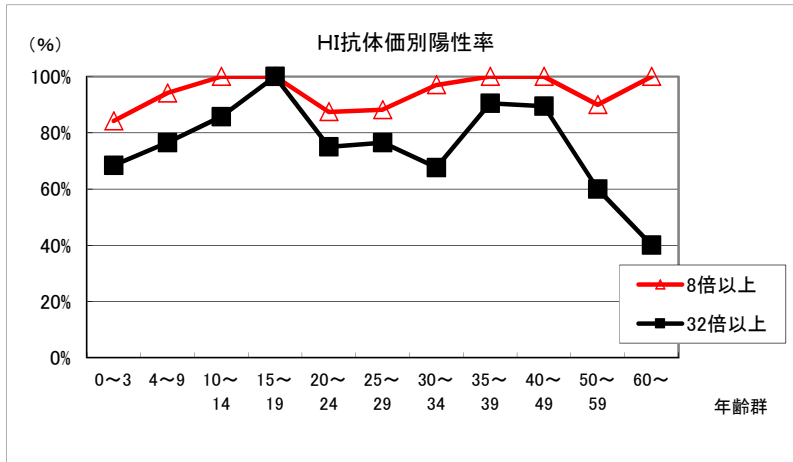


風疹抗体保有状況は、女性は10～14歳、15～19歳、30～34歳、35～39歳、40～49歳、60歳以上の年齢群で、男性は10～14歳、15～19歳、30～34歳、60歳以上の年齢群で95%を超え高い保有率を維持していた。

女性は前回実施した平成29年度の結果では、0～3歳の年齢群は42.9%であったが今年度は84.2%と保有率が41ポイント程度と大きく上昇した。男性は前回の結果では、25～29歳の年齢群で95.0%と高い保有率を示していたが、今年度は79.2%と16ポイント程度低下した。しかし、35～39歳の年齢群では83.3%から93.3%と10ポイント程度上昇した。今年度は男女ともに20代の保有率が95%を下回る結果となった。(前回は女性は20～24歳:100%、25～29歳:89.5%、男性は20～24歳:94.1%、25～29歳:95.0%)

3) 風疹HI抗体価別陽性率(%:女性)

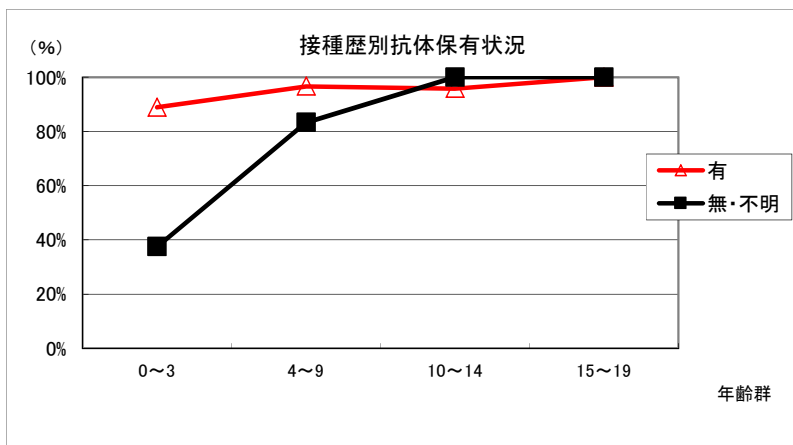
年齢群	0~3	4~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~49	50~59	60~
8倍以上	84.2%	94.1%	100.0%	100.0%	87.5%	88.2%	97.1%	100.0%	100.0%	90.0%	100.0%
32倍以上	68.4%	76.5%	85.7%	100.0%	75.0%	76.5%	67.6%	90.5%	89.5%	60.0%	40.0%



妊娠を希望する女性など、より確実に予防を行う必要がある方はHI抗体価32倍以上が望まれる。HI抗体価32倍以上の抗体保有率は40.0~100%であり、60歳以上の年齢群は全ての年齢群に比べて低い結果となった。また、20歳以上の年齢群では20~24歳、25~29歳、30~34歳の年齢群において80%を下回った。低い抗体価での先天性風疹症候群(CRS)発生事例も報告されていることから、妊娠する可能性のある女性は、自分の抗体価を把握しておくことが重要である。HI抗体価32倍未満の場合にはワクチンの追加接種が望まれる。

4) 低年齢群における接種歴別抗体保有状況 (%)

ワクチン接種歴	0~3	4~9	10~14	15~19
有	88.9% (24/27)	96.7% (29/30)	95.8% (23/24)	100.0% (19/19)
無・不明	37.5% (3/8)	83.3% (5/6)	100.0% (5/5)	100.0% (4/4)



0~3歳ではワクチン接種の有無による抗体保有率の差が顕著であり、ワクチン接種の有効性は明らかであると思われる。今回の結果より母親からの移行抗体は早うちに消失していると推察できることから、第1期の1歳児の定期接種を推奨し抗体保有率を上昇させることが重要である。また、第2期の小学校就学前1年間の定期接種も確実に受けることが望まれる。

5)年齢別風疹HI抗体価の分布(女性)

年齢	HI抗体価									合計
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024	
0	2	1								3
1					4	1	1			6
2	1			2	2	1	1			7
3			2		1					3
4	1			1		1				3
5				1	1	1	1			4
6		1			1	1				3
7			2	1	1					4
8				1	1					2
9				1						1
10				2	2					4
11			1	1	1	1				4
12				2						2
13										0
14			1	1	2					4
15				2	1					3
16				3						3
17					1					1
18					2					2
19				2	1					3
20										0
21			1							1
22				1						1
23					1	1				2
24	1				3					4
25			1	1	2	1				5
26		1								1
27				1		2				3
28				2	1					3
29	2			2	1					5
30			1	1	1			1		4
31	1		2	1	3					7
32		2	3	3	4	1				13
33		1		1	1	1		1		5
34			1	1		1	1	1		5
35				1	2	1	1			5
36			1	1	1	1				4
37				1		1				2
38					1		1			2
39			1	3			3	1		8
40~49		1	1	8	5	1	3			19
50~59	1		2	1	4		1		1	10
60~		1	4	1	3	1				10
合計	9	8	24	50	54	18	13	4	1	181

6) 年齢別風疹HI抗体価の分布(男性)

年齢	HI抗体価								合計	
	<8	8	16	32	64	128	256	512		≥1024
0	3		1	1	1					6
1	1	1			1	2				5
2	1					1				2
3						3				3
4	1		1	1						3
5			1	2						3
6			2		1	1				4
7				2	1	1				4
8				3						3
9		1			1					2
10										0
11				4	3					7
12			1							1
13			1	1	2					4
14			2	1						3
15				2	1	1				4
16										0
17		1	2	2						5
18				2						2
19										0
20				1						1
21				1						1
22			1	1	1					3
23				1	1	2				4
24	1			3		1				5
25	1		1	1		1				4
26	1				3					4
27	1			2						3
28		1	1		2					4
29	2		1	2	2	1		1		9
30					2					2
31		1	1	2	1	1				6
32				1	3					4
33				1	2	1				4
34				1	2	2				5
35				1	1					2
36		1			1	1		1		4
37				1	1			1		3
38	1			1	1					3
39					1	2				3
40~49	2			4	3	4	2			15
50~59	1	1		2	3		1		1	9
60~			1	5	3	3				12
合計	16	7	17	52	44	28	4	2	1	171

3. 日本脳炎

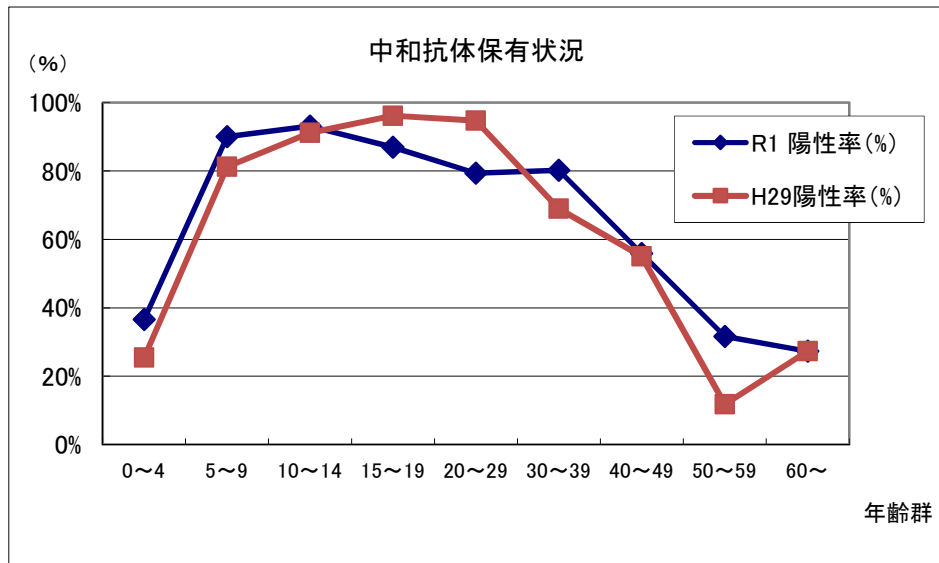
1) 検体数

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
検体数	41	30	29	23	63	91	34	19	22	352

日本脳炎抗体は合計352検体について中和抗体価を測定した。各年齢群の指定検体数は22であるが、50～59歳の年齢群で指定数に達しなかった。

2) 日本脳炎中和抗体保有状況(%: 中和抗体価10倍以上陽性)

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～
R1 陽性率(%)	36.6%	90.0%	93.1%	87.0%	79.4%	80.2%	55.9%	31.6%	27.3%



日本脳炎抗体保有状況は、10～14歳の年齢群で最も陽性率が高く93.1%で、次に5～9歳の年齢群で90.0%であった。その後なだらかに減少している。今年度、50～59歳の年齢群で陽性率(31.6%)は前回(平成29年度: 11.8%)より20ポイント程度上昇したが、20～29歳の年齢群(79.4%)で前回(94.7%)より15ポイント程度低下した。平成22年6月より新しい日本脳炎ワクチンの接種勧奨が始まっており、確実な予防接種が望まれる。